

新潟教区通信

◇◆◇2026年5月号◆◆◇

発行日 2026年5月1日
発行 真宗大谷派新潟教務所長 藤懿 信麿
〒955-0071 三条市本町2丁目1-57
TEL (FAX): 0256-33-2805 (2847)
EMAIL: niigata@higashihonganji.or.jp
WEBSITE: https://otani-niigata.jp

<今月号のトピックス>

正副組長選挙の結果について／選出教区会議員選挙結果について／男女平等参画専門部会専門講座のご案内／敬弔／行事予定表(巻末)

<教区からのご案内>

- 【本部会】 教区教化委員会瓦版
【本部会】 教区女性研修会の開催のご案内
【同朋社会協議会】 靖国問題専門部会専門講座のご案内
【災害支援実行委員会】 ボランティア研修会「被災を縁として ～能登の現状から学ぶ」のご案内
【池の平青少幼年センター】 「池の平青少幼年センター はじめて割」のご案内（再掲載）

<別院からのご案内> ※ 別刷りを同梱

- 【三条別院】 三条別院たより
【新井別院伝統立華研修実行委員会】 新井別院伝統立花研修会のご案内（冊子に掲載）

<その他関係団体等からのご案内> ※[掲載]と表記のあるもの以外は別刷りを同梱

- 【能登支援 team 高田】 活動報告 VOL.24/VOL.24
【長岡連組企画委員会】 「ときめきオテラメシ」のご案内
【新潟連組】 第54回新潟地区公開講演会のご案内
【第10組】 第44回仏教文化講演会のご案内
【第20組】 第50回 公開仏教講演会のご案内
【高田13組社会問題研修部門】 2026 高田13組公開講座のご案内
【勝覚寺同朋の会】 森監督自ら語る「福田村事件」上映・講演会のご案内
【仏徳讃嘆の会】 音声—仏徳讃嘆の集い—のご案内

真宗大谷派 東本願寺 Higashi Otani Temple 宗派公式ウェブサイト内

『同朋新聞』ウェブページをリニューアル!

スマホ、タブレットの画面に最適化させたデザインに!
記事ごとのバックナンバーも読めます!
紙面PDFとウェブページ版の記事がご覧いただけます!

ぜひ、ご覧ください!

『同朋新聞』の最新号をメルマガにて配信しています!

しんらん交流館メールマガジンでは毎月第2・第4土曜日の朝に文章による法話をお送りしています。また、毎月1日に『同朋新聞』最新号の電子版を配信いたします。ぜひご登録ください。

家族や知人にもオススメください! メルマガの登録はこちら

無料

QRコード

正副組長選挙の結果について

任期満了に伴う正副組長選挙において、以下の通り当選者が決定しましたのでご報告いたします。

(任期：2026年4月1日～2029年3月31日)

組名	組長		副組長		副組長	
	寺院教会名	氏名	寺院教会名	氏名	寺院教会名	氏名
第1組	光徳寺	水嶋 聡	圓照寺	藤島 直		
第2組	陽巖寺	上谷 了淳	乗雲寺	渡邊 義要		
第3組	安専寺	老野生 信	應満寺	筒石 晃一		
第4組	常見寺	荒梅 法雄	浄善寺	森 哲雄		
第5組	寶善寺	横山 英一	林覺寺	直江 証成		
第6組	善念寺	滋野 康賢	養福寺	石黒 恵史	明善寺	山崎 祐幸
第7組	正善寺	渡邊 唯	勝福寺	浅山 景	願生寺	平出 文勇
第8組	浄音寺	高山 謙栄	蓮浄寺	森尻 春光	稱名寺	保倉 謙雄
高田11組	圓重寺	大滝 法円	添景寺	長尾 倫章	了慧寺	片桐 恒雄
高田12組	性徳寺	静間 広信	福正寺	矢嶋 一樹		
高田13組	了蓮寺	藤原 圭	龍覺寺	春日 暁子		
第10組	行通寺	佐々木 恵一郎	嚴照寺	成田 高史	願龍寺	田村 真
中越11組	浄福寺	山崎 恵	念相寺	佐藤 法順	圓超寺	大崎 由香
中越12組	浄照寺	小林 智光	安浄寺	安原 陽二		
中越13組	託善寺	川上 伸一郎	善行寺	松野 祐		
第14組	蓮光寺	武樋 隆如	長福寺	鈴木 博英		
第15組	永閑寺	山宮 修霊	光善寺	佐々木 憲雄	明覺寺	土谷 恵淳
第16組	永蓮寺	西窪 守	浄宮寺	佐々木 一人		
第17組	心行寺	平原 文祐	妙音寺	富樫 大樹		
第18組	重蓮寺	関崎 幸孝	恩長寺	渡邊 智龍		
第19組	長養寺	島津 晃	西光寺	中山 哲	即成寺	井上 修
第20組	誓慶寺	栗林 宣行	空則寺	村山 裕之	松韻寺	關根 大丘
第21組	勝念寺	今湊 良信	浄徳寺	浅平 真		
第22組	善龍寺	花房 憲証	長徳寺	関根 正隆	浄観寺	神田 禎尚
第23組	長行寺	野々原 朝生	廣泰寺	齋藤 恵康	慶恩寺	川崎 正利
第24組	萬行寺	松木 洸葉	榮行寺	大溪 文祥		
佐渡組	勝廣寺	濱松 智弘	本光寺	上川 芳浩		

選出教区会議員選挙の結果について

去る4月20日に、選出教区会議員の任期満了に伴う選挙が実施され（無投票）、以下の通り当選者が決定しましたのでご報告いたします。

（任期：2026年4月24日～2029年4月23日）

氏名	所属組	寺院教会名	氏名	所属組	寺院教会名
藤島 直	第1組	圓照寺	鈴木 博英	第14組	長福寺
比護 秀美	第2組	東浄法寺	石塚 祐堂	第15組	長泉寺
土屋 有為子	第5組	蓮光寺	菊井 英信	第15組	稱名寺
豊島 信	第6組	西光寺	佐々木 一人	第16組	浄宮寺
舟見 玲子	第7組	敬覺寺	堀川 秀道	第16組	浄専寺
竹田 証	第7組	本龍寺	富樫 大樹	第17組	妙音寺
大館 崇雄	第8組	正福寺	渡邊 智龍	第18組	恩長寺
矢嶋 一樹	高田12組	福正寺	高松 久麿	第19組	清林寺
田村 真	第10組	願龍寺	關根 大丘	第20組	松韻寺
櫻井 宣雄	中越11組	善乗寺	浅平 真	第21組	浄徳寺
大瀧 定賢	中越12組	専正寺			

男女平等参画専門部会専門講座のご案内

教区同朋社会協議会・男女平等参画専門部会では、下記の通り2025年度専門講座を開催いたします。同朋社会協議会員の方は、ぜひご参加ください。

期 日 2026年5月19日(火)
会 場 高田別院 お食堂（上越市寺町2-24-4 TEL 025-524-3913）
テーマ 真宗の教えから考える差別問題
講 師 田澤 一明 氏（第19組 明誓寺）
対 象 同朋社会協議会員
日 程 14:00 開会
14:10 講義（1時間程度）
15:20 座談（1時間程度）
16:30 閉会

敬 弔

生前のご苦勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。（組順にて掲載）

- ・第18組 西源寺 衆 徒 楠 昭壽（2026年4月11日 寂）
- ・第22組 善念寺 前任職 笠原 秀子（2026年4月11日 寂）
- ・佐渡組 萬照寺 住 職 小林 祐玄（2026年3月20日 寂）
- ・高田13組 福浄寺 前坊守 井上 公（2026年4月12日 寂）

2026年4月20日までにご逝去された方を掲載しています。

教区からのご案内

【慶讃事業推進委員会】

-慶讃法要特別事業- 「本山出向教学研鑽奉仕団」 研修報告

第1組 徳正寺 繁原 立

私は、新潟教区慶讃法要にあたって開催された特別事業「本山出向教学研鑽奉仕団」に参加させていただきました。教区推薦4名、一般応募6名、引率1名の11名で、講師に教学研究所の名和達宣氏をお迎えして、1月26日から28日までの二泊三日、本山で学ばせていただきました。名和先生は、「宗祖親鸞聖人御誕生」「立教開宗」「南無阿弥陀仏」三つのテーマで講義をされました。

講義にあたって、まず今回の教学研鑽奉仕団の「教学研鑽とは何か」というテーマでお話を聞きました。お話の中で鶴見俊輔さんとヘレンケラーさんが出あわれたエピソードを紹介されました。ヘレンケラーさんは、「大学で *learn* (学ぶ) をした。そのことは非常に大事だが、*unlearn* することがもっと大事だ」と言われたそうです。これを聞いた鶴見さんは *unlearn* とは「学んだことを忘れる」とか「学ばない」ことかと考えて不審に思ったそうですが、「学びほどく」というかたちに受け取りました。そのことを、靴紐に譬えています。学ぶことは靴紐を固くすることです。ちゃんと靴を履いて歩くために固く縛ることは大事ですが、それだと生活の中で窮屈になってしまいます。靴紐が段々歩いていくと解けていき緩んで、歩いていくたびに靴が足に馴染んでいくようになります。これが「学びほどく」ということだと、鶴見さんは受け止めたのです。生活を送っていると、また緩んでくるからまたこれを固く結び直すというように、*learn* と *unlearn* を繰り返されていきます。今回の奉仕団における「教学研鑽」とは、この三日間で、今まで生活の中で歩んでき

た足元を確かめて結び直すことです。しかし、それで終わりではなく、また生活の現場に戻っていくことで、学びが結びほどこかれてきて、それを結び直していく歩みが大切だと、名和先生は言われました。この話を聞いて、私にとって、学びを通して聞き続けていく、そしてまた考えるという歩みが、「聞思」ということばと重なりました。

同時に、私たちが学んでいくなかで大切にしなければならないことは、「得道の人」との出あいだとも教えていただきました。「聞思」すること、聞いて終わりではなく、思うこと、考えることは大切です。研鑽して問いが生まれ、また聞いていく中で道があきらかになります。しかし、同時に、私において真実の道があきらかになっても、その道を先に歩まれた方を明確にしなければ、親鸞聖人が、『教行信証』信巻において、

唯、道有りと信じて、都て得道の人有りと信ぜざらん。

是れを名づけて「信不具足」とす [聖典 p.261]

と指摘されたように、ひとりよがりの真実になってしまいます。

私たち真宗門徒にとって、「得道の人」とは宗祖親鸞聖人です。名和先生は、このことをテキスト『宗祖親鸞聖人』を引用して、確認されました。「得道の人」とは、本願念仏の教えが真実であることを実証している人です。そのもっとも具体的な名が、宗祖親鸞聖人なのです。



親鸞聖人は生涯をかけて「宗」を求められました。「宗」とは生活の「要」となる部分です。生活の「要」とは、親鸞聖人にも私にも共通する「人間である根拠」のことです。ゆえに、「宗祖親鸞聖人」を学ぶということは、そのまま、私の生き方、在り方が問われ、学ばれてくるといことです。

「宗祖」とは、決して親鸞聖人を権威付け、限定する言葉ではありません。先んじて同じ道を歩む「得道の人」として、親鸞聖人に向かうことで、私たち一人一人の姿勢が問われるのです。親鸞聖人は生涯をかけ、「宗」を求め、「宗」を見出し、「宗」を表現してくれています。私自身が、親鸞聖人と「宗」を同じくしているかが問われるのです。親鸞聖人を宗祖と呼べるかは、私たち真宗門徒の課題なのです。

私自身は、今回の立教開宗慶讃法要に、儀式をおつとめする役で参加させていただきます。金子大栄先生は『住職道』の中で、「住職道とは…第一に仏祖崇敬である。住職とは仏祖に奉仕するものである。したがって儀式に明らかなものでなくてはならぬ。」といわれています。崇敬の実際は莊嚴と勤式です。亡くなられた先代の近松先生も、「儀式と教学は車の車輪のように常にお互いが回らなければ真直ぐに進むことは出来ない」といわれていました。しかし、私たちは自分の都合の良いかたちで物事を捉えたり、見返りを得たいと思う心や、手ごたえを求める心がどうしても働きます。つまり、名利によって真実が隠されて、真実でないものを真実にしてしまうのです。これによってお互いに尋ねなおす手立てを失ってしまいます。莊嚴と勤式を通して、「かたち」となって私たちの前に現れてくださった「宗」にも、価値観など勝手に押しつけてしまうのです。お念仏一つにしても、高低、一念多念の問題が生まれてくるのです。立教開宗慶讃法要において、私たちに願われていることは、常に名利に惑わされて、しっかりと教えをいただけない自分自身を見

つめ直すことではないかと思います。

親鸞聖人は、「得道の人」として法然上人と出あい、念仏者となりました。私たちも「得道の人」として親鸞聖人に出あえているのでしょうか。立教開宗とは、親鸞聖人が過去に真実の仏教を「(真)宗」というかたちで、あきらかにしたことだけでは成立しません。「得道の人」と出あいによって、今現在を生きる私たち一人ひとりが教えに立ち、一人ひとりに「宗」が開かれることが願われているのです。「宗」が開かれることは、親鸞聖人と「人間であることの根拠」を同じくするということでもあります。そのとき、はじめて「宗祖」として親鸞聖人に出あえるのではないのでしょうか。

歴史的にみて、親鸞聖人における立教開宗はどの年を基点とするのかについても講義がありました。1224年(元仁元年)『教行信証』の草稿本完成説によって宗祖52歳の年を基点とする説や、法然に弟子入りをした1201年(建仁元年)「雑行を棄てて本願に帰す」と宣言していることから、宗祖29歳の年を基点とする説をあげられました。

いずれの説も、相応の根拠があることを教えて頂きましたが、そのなかで、名和先生は、親鸞聖人が後にこの年を末法に入って「六百八十三歳(年)」と『教行信証』に記したことに着目されました。なぜなら、親鸞聖人が末法の深まりを確認した年だからです。その年は、延暦寺から念仏停止の奏状ならびに法然上人十三回忌も重なっていました。

確かに、宗祖29歳の年を基点とする説のように、法然上人との出あいがなければ、親鸞聖人の目覚めはなかったでしょう。しかし、親鸞聖人をして、法然上人があきらかにされた浄土の教えこそが仏教だといわしめた背景には、親鸞聖人の生きた時代が末法だという自覚があったことに他なりません。末法は法滅まで一万年続くとされる中で、親鸞在世のときで末法に入って683年、立教開宗800年だとされる20

23年が末法に入って1,483年だとすれば、まだあと8,500年余りは末法の時代ということになります。名和先生の問題提起は、現代を生きる私たちが、末法の自覚なしに、親鸞聖人があきらかにした「真宗があるから大丈夫だ」と安易に考えるような「念仏者としての姿勢」を問うものではないかと思います。

だからこそ、「聞思し続けていくこと」が私たち真宗門徒にとって大切だと思います。聞いて、理解しても、満足することはありえません。一つ満足してもまた不安や不満が出てくるのが私たち人間です。そんな人間の本質を、親鸞聖人は、「凡夫」とおさえられています。「念仏者としての姿勢」を問う「凡夫」であるためにこそ、学びを止めてはなりません。そして、その学びは一人ではできません。法話などを通して御門徒の方々に伝え、共に共有し、共に問いを持ち、共に訪ね続けねばなりません。儀式においても、装束を身に纏うときも威儀を正すといったことなどからも、常に私たちは「念仏者としての姿勢」が問われていると思います。お勤めにおいても、「声明を聞くものも、声明をするものも共に心身豊かになるお勤めをしなければならぬ」と教えていただきました。自分勝手ではいけないということでしょう。本当にそれでいいのかと常に問い続けていかねばならないと思います。

名和先生からは、「悲嘆なくして慶讃はあり得ない」ということばもいただきました。親鸞聖人のように、私自身と私自身が生きる時代社会の悲嘆とともに、私たちは教えを学んでいかなければなりません。

末法という時代にあって、阿弥陀の大悲を身に受けたからこそ、「悲しきかな、愚禿鸞」という悲嘆が親鸞聖人の中で起こったのでしょう。人間は自分の力ではどうしようもない弱い存在です。名和先生は、浄土真宗は「人間は本質的に弱い」ということを教えてくれる仏教だと言われました。私たちは他力によってでしか救わ

れません。しかし、それは、私たちが、親鸞聖人があきらかにしてくださった浄土真宗という他力の仏法を聞くことができるから、他の生き物よりも救われるということではありません。むしろ、生きていだけで他の生き物よりも罪が深いから、仏法を聞かなければならないのです。私たちが生きる現代社会も、親鸞聖人在世の時代と同じく末法なのです。

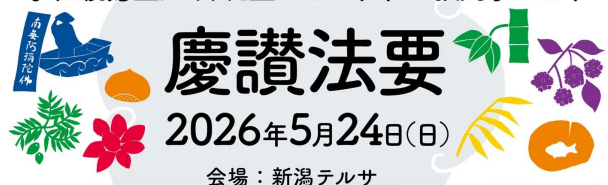
浄土真宗の歴史とは、弱き者に本願が応じてきた歴史です。親鸞聖人は「悪人」とも表現をされますが、私たちは罪悪深重の「凡夫」なのです。末法とは、そんな人間の弱さを如実にあきらかにする時代です。親鸞聖人は、末法という時代を「今、生きていくという自覚」によって悲嘆されています。

今回の慶讃法要を一つのお祭りごととして騒ぐだけで終わらせるような法要の勤め方にならないか、しっかりと考えていかねばならないと私は考えます。大谷派僧侶として、「得道の人」として親鸞聖人を「宗祖」と仰ぎ、私自身も「今、生きていくという自覚」において現代社会を末法として悲嘆することができているか、今回の慶讃法要を通じて「念仏者としての姿勢」を、自分の中でしっかりと考えたいです。

このたびの教区慶讃法要にてご法話いただく
法話者は、「本山出向教学研鑽奉仕団」に参加された以下の3名の方に決定しました。

金子 詩織 氏 (第6組最賢寺)
推耳 妙子 氏 (中越13組廣永寺)
新田 顕光 氏 (第17組光照寺)

宗祖親鸞聖人 御誕生八百五十年 立教開宗八百年





講師

荒山 淳氏

1961年2月愛知県名古屋市生まれ。同朋大学文学部仏教学科卒業。研修部同朋会館嘱託補導・教導、名古屋大谷・豊田大谷高校宗教科講師を歴任。

06年名古屋教区教化センター主幹に任命され共同教化の現場を担う「人の育成」「場の創造」を行ってきた一方、尾張の真宗史「講」組織の調査、近現代の「大谷派と戦争」、現代社会が抱える諸問題と真宗教化の接点を探る18年の任期を勤め上げた。

現在は名古屋教区第30組恵林寺副住職。真宗本廟教導、本山研修部同朋会館教導、真宗本廟楽僧取締を拝命され楽僧指導に当たっている。著書に『世のいのりに心いれて耳の底に留むる親鸞の言葉』（樹心社）がある。

親鸞聖人御物語の趣 （念仏者の生きる方向性）

2025年度
教区女性研修会

女性研修会は門徒が中心となって聞法の間を開いてきました。

教区女性研修会は、三条別院を会場に、県外から講師をお呼びして開催する研修会です。

是非、この機会に、共に教えに訪ねてみませんか。

2026.6/5 (金)

- 日程 10時[開会式]～15時30分[閉会式]
※9時30分から[受付]をいたします。
- 会場 三条別院（三条市本町2丁目1-57）
電話 0256-33-2805
- 参加費 2000円（昼食代が含まれます）
※WEB参加の方は、1000円
- 持ち物 念珠・勤行本・筆記用具 ※同朋手帳 ※真宗聖典
※お持ちの方は持参ください。
- 申込 裏面を参照の上、5月25日(月)までに申込ください。
- その他 WEBでの参加も可能です。※午前講義のみ

主催 新潟教区女性研修会

女性研修会申込みの流れ

会場にてご参加の方

A 「女性研修会参加申込書」を使用される方

「申込書」(別紙)に必要事項を記入の上、**5/25(月)までに**新潟教務所へ郵送またはFAXください。

※ 参加費(2000円)は当日会場にてお支払いください。

B 「WEB申し込み」を使用される方

右のQRコードから「申し込みフォーム」へアクセスし、**5/25(月)までに**必要事項を記入してお申し込みください。

※ 参加費(2000円)は当日会場にてお支払いください。



申し込みフォーム

WEBにてご参加の方

A 「女性研修会参加申込書」を使用される方

「申込書」(別紙)の備考欄に、WEB参加と記入いただき、併せてメールアドレスも記入ください。

その他、必要事項を記入の上、**5/25(月)までに**新潟教務所へ郵送またはFAXください。

※ 参加費(1000円)は**6/1(月)までにお振込み**ください。

B 「WEB申し込み」を使用される方

上記に掲載の申込QRコードから「申し込みフォーム」へアクセスし、**5/25(月)までに**必要事項を記入してお申し込みください。参加方法の項目で、「WEB参加」を選択ください。

※ 参加費(1000円)は**6/1(月)までにお振込み**ください。

振込先について

銀行 ゆうちょ銀行振替口座
支店名 ○六九店(ゼロクキウ店)
記号番号 00680-7-1964
加入者名 「真宗大谷派新潟教務所」
(シシユウオクニハニカク タクヨムシヨ)

※ 支店名・口座番号等は旧三条教務所で
使用していた口座と同様です。

会場について

三条別院
アクセス →



お問
い
合
わ
せ

新潟教務所(担当 谷)

〒955-0071 新潟県三条市本町2丁目 1-57

TEL 0256-33-2805 / FAX 0256-33-2847 / E-mail niigata@higashihonganji.or.jp

主催 新潟教区教化委員会 女性研修会実行委員会

■女性研修会参加申込用紙

寺院・教会にてお取りまとめの上、**5月25日(月)**までに、郵送かFAX、メールでお申し込み下さい。

※WEBでのお申込みも可能です。

報告者	組	寺	氏名	
(連絡先電話番号： - -)				

No.	氏名	所属寺	昼食	坊守	備考 (WEB参加はメールを記入。 他、午前参加のみ等)
1		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
2		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
3		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
4		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
5		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
6		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
7		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
8		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
9		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:
10		組 寺	要・不要	前坊守 坊守 若(准)坊守	メール:

【いただいた個人情報は、本研修会に必要な連絡にのみ使用させていただきます。】

※ご不明な点は、新潟教務所までお問い合わせください。

真宗大谷派新潟教務所(担当 谷 俊)

〒955-0071 三条市本町2丁目1-57 電話：0256-33-2805 / FAX：0256-33-2847

大谷派反戦僧侶の願い

靖国問題専門部会専門講座

反戦僧侶の軌跡を通じて、仏教の戦争責任と
今を生きる非戦の精神をともに考えます

日時 2026年6月8日(月) 13時30分～16時30分
会場 三条別院 旧御堂
講師 大東 仁氏 (愛知県光圓寺住職)
対象 どなたでも (申し込み不要)
講題 「大谷派反戦僧侶の願い」
内容 戦時中の反戦僧侶について学ぶ
「戦争は罪悪である」DVD視聴と講義
主催 同朋社会協議会靖国問題専門部会
連絡 新潟教務所(戸次)TEL0256-33-2805



新潟教区災害支援実行委員会主催公開講演会

被災を縁として～能登の現状から学ぶ

東日本大震災から15年、令和6年能登半島地震から2年が過ぎました。最近では震災関係の報道も随分と減少していて、「きっと復興もすすんでいるよね」と比較的被害の少なかった地域に住んでいると、そんな風を感じたり、世間では既に過去のコトとして認識されたりしているようにさえ感じることもありませんか。

しかし現実には、まだまだ復興も道半ばであるようです。今回は、そのような現状で、被災された方に寄り添いつつ、親鸞聖人の教えを共に考えながら活動されておられる能登教区のお二人をお招きしましての講演会を開催します。高田別院が会場ですが、三条別院でのサテライト会場でも、中継でのご参加も可能です。

震災以降の活動についてお聞きし、あらためて真宗寺院に居を構えている身として、災害・被災から問われている問題・課題を自分事として考えられる時間になればとの願いで計画いたしました。是非とも大勢のご参加をおまちしております。

- **開催日** 2026年5月18日(月) ※日程は下記の表をご覧ください。
- **会場** 高田別院 上越市寺町2-24-4
新潟別院(サテライト会場) 三条市本町2丁目1-57
- **講師** ① 畠山 一心氏(能登教区 常福寺)
② 竹原 了珠氏(能登教務所長)
- **参加費** 500円 ※災害支援の募金箱を用意しますので、是非ご協力ください!!

※講演会後に講師のお二人と共に懇親会の席も用意します。

参加を希望される方は、教務所(0256-33-2805)または楠(080-5483-8318・muriou@yahoo.co.jp)までお問合せ下さい。懇親会場は未定ですが、高田別院近辺での開催予定です。

13:00	受付開始
13:30	開式・委員長挨拶
13:40	講師① 畠山 一心氏 (40分)
14:20	休憩 (10分)
14:30	講師② 竹原 了珠氏 (40分)
15:10	休憩 (10分)
15:20	質疑応答・対談
16:30	閉会・副委員長挨拶

東本願寺池の平青少幼年センター はじめて割

対象者…センターを初めてご利用される方

割引内容…初回の施設利用料が **半額**

例えば…

大人1泊2日(夕・朝食付)

4,500円 → 2,250円

小人

3,800円 → 1,900円

期間…2026年6月30日ご利用分まで

こんな活動ができます！

- ・スキー・スノーボードの拠点として
- ・各種研修会・セミナーの会場として
- ・越後御旧跡探訪の拠点として

👉 団体様・個人様問わず、
どなたでもご利用いただけます！

東本願寺
池の平青少幼年センターは…

- ・源泉かけ流しの温泉♨️
→活動の疲れを癒やす極上のひととき。
心と体をリフレッシュ！
- ・高速Wi-Fi完備
→ワーケーション、合宿、研修会での
リモートワークも快適に



📍 センター情報・ご利用案内

所在地：〒949-2112 妙高市関川 2283

電話番号：0255-86-2801 (ご予約・お問合せはお気軽に)

開館時間日帰り：9:00～16:30

宿泊：14:00 チェックイン / 11:00 チェックアウト

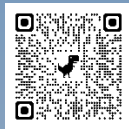
休館日：年末年始

別院からのご案内

6月17日(水) 13時30分より(13時受付)

普段お使いの花瓶でできる基本を確認するとともに、伝統立華の型にもふれる研修会
三別院でそれぞれの荘厳の共有、また立華に携わる者の交流の場を兼ねて

対象 寺族、ほか寺院立花に携わる者
持ち物 花瓶、花鋏、ほかお使いの華道具
会費 5,000円(花材代)
申込み QRコードのフォームまたは電話にて



申し込み先(尾崎)
090-6732-7318

日程(変更となる場合がございます)

13:30 立華研修交流会
実演講義・ワークショップ
講師 白鳥賢氏
第15組 本龍寺住職
16:00 カイ・相釘の用法 実演講義
講師 古川雅文氏
16:45 質疑応答
17:00 閉講

新井別院伝統立華研修会

御坊が荘厳されてきた立華を次世代へつなぐ

会費 別院のお賽銭を以て会費といたします。

対象 どなたでも

持ち物 花鋏(お持ちの方)、手袋

申し込みは不要です。

講師 古川雅文氏

日程

10:00 開会
10:10 カイ作り実演講習
10:40 ワークショップ
各自休憩・昼食
16:00 閉会

6月18日(木) 10時より

皆さんの手で御坊を荘厳いたしましょう。
華道の経験は不問です。

会場 新井別院
妙高市下町5-3

主催/新井別院伝統立華研修実行委員会 共催/真宗大谷派 新井別院

「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」

2026年5月 行事予定表

日付	曜	開始	終了	会場	行事名
5月2日	土	14:00	20:20	● 三条別院	真宗学院【三条学舎】(毎週土)
5月7日	木	14:00	16:00	● 三条別院	教区会(臨時会)
5月8日	金	17:00	18:00	● 高田別院	地区キャンプ スタッフ立ち上げ会議
5月9日	土	14:00	20:20	● 三条別院	真宗学院【三条学舎】(毎週土)
5月9日	土			● 池の平青少幼年センター	子どものつどい
5月10日	日			● 池の平青少幼年センター	子どものつどい
5月10日	日	14:00	16:30	● 第2組善正寺	指定同朋の会 第2組善正寺①
5月11日	月	13:30		● 三条別院	教学研究会③
5月12日	火		17:00	● 三条別院	教学研究会③
5月12日	火			● 高田別院	【高田】御命日
5月12日	火	10:30	15:00	● 高田別院	真宗学院【高田学舎】図書資料室(毎週火・水)
5月12日	火	13:30	16:30	● 高田別院	御命日法話(お食堂)
5月13日	水	13:30	16:30	● 三条別院	慶讃 教学研究会
5月13日	水	10:30	15:00	● 高田別院	真宗学院【高田学舎】図書資料室(毎週火・水)
5月13日	水	10:00	12:00	● 三条別院	【三条】庭講
5月13日	水	13:30	15:00	● 三条別院	【三条】定例法話
5月13日	水	14:00	16:00	● 新井別院	【新井】院議会
5月13日	水	14:00	16:00	● 三条別院	慶讃事業 財務部会
5月13日	水	18:30	20:00	● 三条別院	【三条】書道教室
5月13日	水	19:00	21:30	● 高田別院	聞思学場 定例⑤
5月14日	木	13:00	16:00	● 高田別院	組教化担当者協議会②(高田)
5月14日	木	13:30	15:30	● 三条別院	参拝部会 スタッフ大集合(会議室)
5月15日	金	13:00	16:00	● 三条別院	組教化担当者協議会②(三条)
5月15日	金	14:00	16:00	● 三条別院	慶讃儀式部会会議
5月16日	土	14:00	20:20	● 三条別院	真宗学院【三条学舎】(毎週土)
5月17日	日	13:30	15:30	● 高田12組 光圓寺	指定同朋の会 高田12組光圓寺②
5月18日	月	13:00	17:00	● 高田別院・三条別院	災害支援実行委員会ボランティア研修会
5月19日	火	10:30	15:00	● 高田別院	真宗学院【高田学舎】図書資料室(毎週火・水)
5月19日	火	14:00	17:00	● 高田別院	男女平等参画専門部会 専門講座
5月20日	水	10:30	15:00	● 高田別院	真宗学院【高田学舎】図書資料室(毎週火・水)
5月20日	水	14:00	16:30	● 三条別院	本部会
5月21日	木	14:00	16:00	● 三条別院	教化センター学習会④/閉講式
5月22日	金	14:00	16:00	● 高田別院	「是旃陀羅」問題WG
5月24日	日	13:00	16:00	● 新潟テルサ	新潟教区慶讃法要
5月26日	火	10:30	15:00	● 高田別院	真宗学院【高田学舎】図書資料室(毎週火・水)
5月26日	火	12:30	16:30	● 高田別院	【高田】第8組同朋総会
5月27日	水			● 高田別院	【高田】御命日
5月27日	水	10:30	15:00	● 高田別院	真宗学院【高田学舎】図書資料室(毎週火・水)
5月27日	水	13:30	14:30	● 三条別院	【三条】御命日逮夜法要
5月27日	水	18:30	20:00	● 三条別院	【三条】書道教室
5月28日	木	10:00	12:00	● 三条別院	【三条】御命日日中法要
5月30日	土	14:00	20:20	● 三条別院	真宗学院【三条学舎】(毎週土)
5月30日	土	15:25	16:25	● 三条別院	【三条】諸殿拝観(中越11組真宗講座)

▶Googleカレンダーに入力されたデータから掲載しています。時間等変更となっている場合もございます。詳細はお問合せください。

▶会場について、高田別院は●、新井別院は●、三条別院は●、その他は●として色分けしています。